

- 原著 -

歯科治療時における不適応児とその母親の行動観察

住吉 智子^{1,2)}, 田辺 義浩¹⁾, 佐野 富子¹⁾, 野田 忠¹⁾

¹⁾新潟大学大学院医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻
口腔健康科学講座 小児口腔科学分野
(主任: 野田 忠教授)

²⁾新潟大学医学部保健学科 看護学専攻 小児看護学分野
(主任: 田原幸子教授)

Observation on the behavior of uncooperative child patients with their
mothers during dental treatment

Tomoko Sumiyoshi^{1,2)}, Yoshihiro Tanabe¹⁾,
Tomiko Sano¹⁾, Tadashi Noda¹⁾

¹⁾ *Division of Pediatric Dentistry, Department of Oral Health Science,
Course for Oral Life Science, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences
(Chief: Prof. Tadashi Noda)*

²⁾ *Division of Pediatrics Nursing, Department of Nursing Science,
School of Health Science, Faculty of Medicine, Niigata University
(Chief: Prof. Sachiko Tahara)*

平成15年5月1日受付 5月1日受理

Key words : Child patients (小児患者), Uncooperative behavior (不適応行動), mother-child interaction (母子相互作用)

Abstract : We investigated the interaction between child patients and their mothers during dental treatment. Subjects were 5 pairs of mother-child who visited the Pediatric Dentistry of Niigata University Dental Hospital. The age of the children ranged from 5 to 7 years. The behavior of the mothers during dental treatment of their children was observed with consideration for negative behavior of their children.

The results were as follows:

- 1) In 117 scenes, the behavior of the 5 children was assessed (33 scenes (28.1%) were "Definitely negative", 23 scenes (19.7%) were "negative", 34 scenes (29.1%) were "Definitely positive" and 27 scenes (23.1%) were "positive" behavior)
- 2) In 117 scenes, the behavior of the 5 mothers was assessed (42 scenes (35.9%) were "positive support", 38 scenes (32.5%) were "passive support" and 37 scenes (31.6%) were "observing in silence".
- 3) Of the mothers' approaches to the children, the most frequent action was "calling the child's name and saying words of encouragement" (32.5%). Others were "giving instructions and controlling the child's behavior" (24.2%), "explaining" (22.5%) and "scolding" (9.1%). The remaining actions (12.5%) were allocated into "other action".
- 4) The results of the present study indicated that the roles of the mothers for their children at dental situation were "supporting them for overcoming the treatment", "alleviating their stress" and "allaying their fearful feeling".

抄録: 今回我々は、小児が歯科治療に付き添う母親から、どのような影響を受けているかを明らかにすることを目的として、歯科治療時に不適応を認める患児について母子の行動を評価した。対象は新潟大学歯学部附属病院小児歯

科診療室を受診した患児と母親5組とした。

結果を以下に示す。

- 1) 5組の患児の適応状態評価場面は117場面あり、「Definitely negative」は33場面(28.1%)であり、「Negative」は23場面(19.7%)であった。「Definitely positive」は34場面(29.1%)、「Positive」は27場面(23.1%)であった。
- 2) 5組の母親の行動評価場面は117場面あり、「積極的支援」は42場面(35.9%)、「消極的支援」は38場面(32.5%)、「注視・沈黙」は37場面(31.6%)であった。
- 3) 5組の母親の患児への言動は「呼名・はげまし」(32.5%)が最も多く、続いて「指示・制止」(24.2%)、「説明」(22.5%)であった。最も少なかったのは「叱責」(9.1%)であり、分類されなかったものは「その他」(12.5%)とした。
- 4) 歯科治療に付き添う母親は患児に対し「治療・処置への支援」、「治療時のストレスの共有」および「不安や恐怖心の緩和」を行っており、小児患者はこれらの役割を母親に期待していることが示唆された。

I. 緒言

小児歯科臨床において、歯科治療に不適応な患児に対し、適切な対応を行う重要性は広く知られている。現在さまざまな方法が応用される一方で、患児が歯科治療に不適応を起こす要因の分析も行われている。

これまでの研究では、母親の特性不安と患児の適応度との関連¹⁾、付き添い依存度と適応状態との関連²⁾が報告され、付き添う親が何らかの形で患児の歯科診療への適応性に影響することが報告されている。しかし、歯科診療中に付き添っている親の行動と患児の行動を分析し適応性の変化を明らかにした研究は、現段階で知りうる限り見当たらない。

小児歯科では、患児・歯科医師・保護者の三者の人間関係で歯科治療が行なわれると言われている。したがって、保護者、とりわけ歯科治療中の母親の行動が、小児の協力性に何らかの影響を与えていることが推測される。また、一見適応しているように見える患児でも突如泣いて治療を拒否する場合もある。一方、ユニットに上がる時点では泣いていても、治療中はほとんど不適応行動を認めない場合もあり、1回の治療中でも患児の適応性はたえず変化することを経験する。

そこで今回、治療や処置に苦痛や恐怖を感じている小

児患者への援助を看護者の立場から明らかにしようと考えた。その第一段階として、歯科治療に不適応な場面を中心として、患児は診療に付き添う母親からどのような影響を受けるのかを明らかにすることを目的に、母子間の行動を観察し、その内容の分析を試みたので報告する。

II. 対象および方法

1. 対象

対象は定期診査のため新潟大学歯学部附属病院小児歯科診療室を受診し、その治療中に不適応行動を認めた患児とその母親5組とした。患児の年齢は5歳11か月～7歳2か月(男児:2名,女児:3名,平均年齢6歳8か月)であり、母親の平均年齢は39.2歳(SD±4.68)であった。研究対象となった母親は、治療中の全過程において患児に付き添っていた(表1)。小児歯科診療室では、患児に保護者が付き添うことを奨励し、患児が単独で治療を受けることは希である。なお、調査にあたっては、あらかじめ研究の趣旨を口頭で説明し、研究への協力の承諾を得た。

表1 対象の属性

Case	性別	年齢	診療時間	診療内容
1	男児	6y8m	11' 03"	診査・切削・充填処置・研磨・ブラッシング指導
2	女児	5y11m	9' 02"	診査・浸潤麻酔・切削・充填処置・研磨
3	女児	7y	35' 17"	診査・切削・乳歯冠装着・ブラッシング指導
4	男児	7y2m	36' 28"	診査・浸潤麻酔・切削・乳歯冠装着・ブラッシング指導
5	女児	7y2m	7' 03"	診査・歯面研磨・ブラッシング指導